

カービュー マーケットウォッチ (2009年12月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で前年同月比 124.7%と4カ月連続のプラス!

09年11月順位	09年10月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	26,815
2	(2)	→	フィット	ホンダ	17,178
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	13,429
4	(7)	↑	カローラ	トヨタ	11,193
5	(9)	↑	インサイト	ホンダ	9,413
6	(8)	↑	セレナ	日産	9,331
7	(5)	↓	フリード	ホンダ	9,239
8	(4)	↓	パッソ	トヨタ	8,684
9	(6)	↓	ヴォクシー	トヨタ	8,198
10	(16)	↑	ステップワゴン	ホンダ	7,501
11	(20)	↑	ラクティス	トヨタ	6,739
12	(12)	→	ヴェルファイア	トヨタ	6,358
13	(13)	→	ノア	トヨタ	5,845
14	(11)	↓	ウィッシュ	トヨタ	5,750
15	(10)	↓	ノート	日産	5,438
16	(18)	↑	キューブ	日産	5,380
17	(15)	↓	エスティマ	トヨタ	5,205
18	(14)	↓	ティーダ	日産	4,836
19	(17)	↓	デミオ	マツダ	4,157
20	(/)	↑	マークX	トヨタ	4,038

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で前年同月比124.7%と4カ月連続のプラス！ 輸入車も19カ月ぶりに前年を上回り、復調傾向が明確に

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した11月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体では36万8721台で、前年同月比124.7%と4カ月連続で前年を上回り、今年初めて2ケタのプラスを記録した。3ナンバーの普通乗用車が前年同月比145.5%、5ナンバーの小型乗用車も142.7%と4割強も伸び、91.8%と12カ月連続で前年同月比がマイナスとなった軽乗用車の落ち込み分をカバーしてもあまりある結果となった。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は25万4996台で、前年同月比146.4%（日産デュアリス輸入分含む）と5カ月連続のプラス。46.4%アップは数字的にインパクトはあるが、昨年9月に起きたリーマンショックにより、昨年11月は前年同月比72.8%と大きく落ち込んでいた反動であることも事実。ただ一昨年の23万9229台と比べても6.6%アップだから、確実に復調傾向にあることは間違いない。月間ランキングでは、「トヨタ プリウス」、「ホンダ フィット」、「トヨタ ヴィッツ」のトップ3は6カ月連続で変動なし。4位は前月まで苦戦していた「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」が1万1193台で一昨年9月以来の前年同月比プラス（107.5%）となって3ランクアップしたほか、10月にモデルチェンジした「ホンダ ステップワゴン」が7501台で322.3%と大きく伸び、前月16位から久々のトップ10入りと、既販モデル、ニューモデルが入り乱れるように順位が入れ替わった。

軽乗用車も全体では前年同月比マイナスが続いているものの、日産、マツダが前年同月比プラスに転じるなど明るい兆しも。12月に「スズキ アルト」、「マツダ キャロル」、「ダイハツ タントエグゼ」といったニューモデルが続々と登場するだけに、今後は期待できそうだ。

また18カ月連続で前年割れ状態が続いていた輸入車は乗用車全体では1万3455台で、前年同月比108.0%。海外メーカー製のみでも1万2161台で、103.7%と前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が14カ月連続トップで、BMW（ミニ除く）が2位、3位メルセデス・ベンツ、4位アウディ、5位ミニと順位は変わらないが、VWが3326台で前年同月比102.3%、BMWも2146台で114.6%とプラスとなったのが注目される。

■ココも気になる！その1

切れ目のないニューモデル投入で快走を続けるホンダ

昨年は国産3/5ナンバーの乗用車全体で4年ぶりに前年を上回ったホンダ。07年10月にモデルチェンジした「フィット」が大ヒットし、17万4910台で年間ランキングトップになったことに加え、昨年5月にデビューした「フリード」も好調に売れたのが要因だ。そして今年2月にハイブリッドカーブームの先鞭（せんべん）をつけた「インサイト」を投入。4月に月

間トップとなり、「プリウス」発売後も、着実にトップ 10 圏内をキープし、11 月までの累計でも 8 万 1316 台でランキング 6 位につけている。昨年トップのフィットは 14 万 3382 台で、前年同期比 86.9%ながら 2 位、フリードも 7 万 1598 台で 8 位と、ニューモデルを確実にヒットにつなげている。

そんなホンダの今年のフルモデルチェンジ第 2 弾として、10 月に「ステップワゴン」が登場。08 年 7 月に累計販売台数 100 万台を突破した人気モデルだけに、月間販売目標 6000 台と厳しい状況下でも高い目標を掲げたが、発売後約 1 カ月の受注が約 1 万 8000 台と好スタート。11 月は 7501 台で 10 位にランクアップした。ステップワゴンが属する 5 ナンバークラスミニバンは「日産 セレナ」、「トヨタ ヴォクシー／ノア」といったハイト系と、「トヨタ ウィッシュ」や「ホンダ ストリート」などのスタイリッシュ系がひしめき合う激戦区だが、先代で極めた低床・低重心設計のまま、最大級の室内空間を実現しているだけに、競争力は高そうだ。セレナ、ヴォクシーの強カライバルに、どこまで食い込めるか要注目だ。

さらにホンダは来年 2 月にはハイブリッドカー初のスポーティモデル、CR-Z を投入し、ひとり勝ち状態のプリウスに対し、インサイトと CR-Z のタッグで挑む。確かな商品戦略がキング・トヨタをどこまで脅かすか、CR-Z の出来とともに期待したいところだ。

■ココも気になる！その 2 新型ポロが VW を救う？

先日、スズキとの包括的な資本・業務提携で大きな話題となった VW。スズキが欲していたハイブリッドカーや電気自動車などの環境対応技術を提供し、スズキが得意とする小型車の低コスト化技術を取り込み、中国に次いで高い成長が見込まれるインドでの事業拡大に協力を仰ぐものと見られる。まだ基本契約が結ばれたただけだから、今後の進展にも目が離せない。

スズキとの提携で、「2018 年に 1000 万台規模の世界販売を確保し、世界 No. 1 になる」という VW の野望に近づいたともいわれているが、日本の輸入車市場では苦戦が続いている。昨年の販売台数は前年比 12.0%減ながら、4 万 5522 台で 9 年連続輸入車ブランド No. 1 を堅持しているが、今年は 11 月時点で 3 万 4250 台で、前年同期比 83.4%。輸入車市場全体では前年同期比 79.1%だから、落ち込み幅は少ないとはいえ、4 月に主力モデルの「ゴルフ」をモデルチェンジしているだけに、やや心許ない状況だ。

しかし救世主が登場。それが 10 月に発売した新型「ポロ」。年内納車可能台数は 3000 台としていたところ、発売後 2 週間で 1700 台を突破したのだ。新型ポロは、販売態勢が整う来年の年間販売目標を 1 万 6000 台と、先代の最高販売台数、03 年 1 万 3825 台の 15.0%アップに設定していたのだが、その高い目標（月割りで 1300 台強）を上回る売れ行きになっているわけだ。新型ポロは今年 5 月にドイツで発売されて以来、世界市場でも好調で、すでに 13 万台以上を受注。11 月にはヨーロッパ・カー・オブ・ザ・イヤー 2010 も受賞している。来年には 1.2 リッターターボの上級グレードの投入も予定されており、VW のみならず、輸入車市場の起爆剤になりそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
